

様式1												令和7年度 学校評価表															
学校教育目標				自分の力で考え、ともに伸びる ～ かしこく・やさしく・たくましく ～																							
a ミッション				小中連携の推進による、自立性・協働性の育成								a ビジョン				学んでよかった・通わせてよかったとっていただける学校に ～「考えること」「行動すること」で感動が連鎖する「Show学校」を創ります～								尾道市立西藤小学校			
評価計画												自己評価						学校関係者評価				改善計画					
		b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント		m 改善案										
												イ	ロ	ハ													
確かな学力	かしこく		自立的に問題を解決する児童の育成	西藤版 個別最適な学びの創造 ・デジタルコンテンツの活用 ・練習問題におけるコース設計 ・児童に「困り感」を抱かせる課題設定・提示	・算数科の単元末テスト（知・技）（思・判・表）の正答率が70%を上回る児童の割合	80%	81%		101	A	算数科の単元末テスト（知・技）（思・判・表）についての月毎の集計では、4・5月に比べ、学期末の方が実施したテストの数は増えたにもかかわらず、数値は上がっていた。全体としては目標値を達成できているものの、目標値を達成できていない学年もまだある。 自立的に問題解決することに対する児童の意識調査においては、91%の児童が肯定的に答えている。特に、「算数の問題に対して、『考えてみたい。』『やってみたい。』と感じます。」という項目の数値が高く、児童自身が自立的に問題を解決しようとする姿から生き生きとして学びたいという気持ちが変わってきました。授業づくり、これからも願います。 ・他校では実施されている所もあると思いますが、昼食後、お昼寝をする時間があってもよいのではと思いました。「午後からの授業も眠くならず集中できた。」とテレビで見ました。	3			・論理的な思考を育むためにも算数への取組は大事だと思います。数独がお勧めです。 ・各学年で学力の定着にばらつきがあると思いますが、給食配膳中の学力補充や教員の指導教科の交換など対策もされており、とてもよいと思います。 ・算数と聞くだけで苦手な児童が多い中、「やってみたい。」と意欲的に取り組めている児童が多いのは、やはり先生方の授業の工夫があるからでしょう。以前見させてもらった授業も児童たちがグループで考えを出し合いながら疑問点を見つけ解決しようとする姿から生き生きとして学びたいという気持ちが変わってきました。授業づくり、これからも願います。 ・他校では実施されている所もあると思いますが、昼食後、お昼寝をする時間があってもよいのではと思いました。「午後からの授業も眠くならず集中できた。」とテレビで見ました。	「練習問題におけるコース設計」への取組については、「一単元の全時間の中で3～4割程度実施する」という目安を決めるとともに、コース設計の具体的な例を示すことで、全学級での確実な実施を進めていく。 算数科の単元末テストについて、正答率が常に70%を下回っている児童については、算数科の授業の時間だけではフォローアップできないため、給食配膳中の学力補充で個別指導を行う。また、朝のスキルタイムの時間を、学級の児童の定着が十分な内容を扱うなど、有効に活用していく。 4月に実施した全国学力・学習状況調査については、児童の誤答を分析し、今後の授業の改善策を話し合った。目標達成のための3つの方策に加えて、「問題文等に出てきた言葉の意味を辞書で調べさせるなどして、言葉の意味を確認する。」「情報過多または情報不足の問題を提示したり、自分の考えを記述させる際、条件を提示したりする。」などの改善策にも取り組んでいく。											
					・自立的に問題解決することに対する児童の意識調査（アンケートによる肯定的回答3段階以上の割合）	80%	91%		114	A	2つの評価指標の目標値は、どちらも達成することができたが、目標達成のための3つの方策のうち、「練習問題におけるコース設計」への取組が不十分であった。全学級での確実な実施を進めていき、児童がより自立的に問題解決できるようにする必要がある。																
豊かな心	やさしく	『志プロジェクト』の推進	お互いの違いを受け入れ、良さを認め合い、相手や時と場に応じた言動ができる児童の育成	声を掛け合い、自己肯定感を高めるつながり作り ・挨拶運動 ・ありがとう・いいね箱 ・異学年交流	・児童アンケートで「自分には良いところがある。」「自分はみんなの役に立っている。」と回答した児童の割合	80%	81%		101	A	「自分にはいいところがある。」(85%)、「自分がみんなの役に立っている。」(77%)で平均して81%と目標達成できた。自己肯定感が高く、「ありがとういいねカード」をもらってうれしい(86%)、「スマイル班活動に進んで参加している」(92%)と、児童会が意欲的に進めている異学年交流による成果であると考え。自己有用感目標に達しておらず、自分の仕事への責任感や、みんなのための仕事であるという自覚を高め、達成感や感謝されるやりがいを実感させることが必要である。	3			・異学年交流は、責任感や思いやりの心を養うよい機会だと思います。自分たちとは違う行動をしてしまう子に対して、つい強い口調になっている姿も見かけますが、いろいろな子がいることを知り、自ら手助けできる人になって欲しいです。 ・他人から評価をされる自己肯定感と自分で自分を評価できる自己肯定感が大切だと思います。 ・あいさつは、まわりの大人がその姿を見せないとはいけませんね。自分も反省です。 ・地域の人へのあいさつも、随分できるようになってきました。高学年がもう少し元気よくあいさつできれば、低学年のお手本になるのにもったいないなと思います。 ・「ありがとう・いいねカード」やあいさつカードは、児童のやる気を出すと思うのでよいと思いますが、一部の児童にはまだ定着していないように思われます。全員が共に取り組めるよう工夫していけたらよいと思いました。	自己肯定感については、キャリアノートや作文で振り返られるようにする。自己有用感については、係や当番活動、委員会などでの役割が、みんなのための仕事であるという自覚を持たせ、ほめほめ作戦で感謝の言葉でやりがいにつなげる。担任が取組を意識して「ありがとう・いいねカード」を書く時間を、週に10分程度位置づけ、もらう喜びを全児童に実感させることで、取組への意欲付けを行い、自己肯定感の高まりを図る。											
					・毎月設定するあいさつ目標を達成した児童の割合	80%	72%		90	B	あいさつカードを貼って綴ることで、自分の成果やがんばりを視覚化することができた。自分で設定したあいさつ目標を達成できた児童は(72%)であった。9割以上の児童が「尾道ーあいさつのできる学校にしたい。」という思いを持っており、習慣化により自信をもって実践する力をつけていきたい。						あいさつの習慣をつけさせるために、2学期は学級の全員とあいさつを交わす取組を行う。また、スマイル班で2班ずつ一週間、下校集会の際に「スマイルあいさつ運動」を行い、取組を自分度事として自覚させる。										
健やかな体の育成	たくましく		健康な生活について考え、体づくりに取り組む児童の育成	外遊びや、新体力テストを基にした取組による体力の向上 ・休憩時間の全校外遊び 歯と口の健康に関する意識の向上 ・はみがきタイム ・保健チェック	・児童アンケートで休憩時間に体を動かすことが楽しいと答える児童の割合	85%	78%		92	B	休憩時間に体を動かすことを肯定的に捉えている割合は78%であり目標に達していなかった。6・7月の暑さもあり、外遊びに対する意欲が低くなっていたと考える。他学年や友達と体を動かすことの楽しさを感じている意見が多かったため、全校遊びに多く取り組むことや学校内の環境を変える必要がある。	3			・毎週水曜日にロング屋休憩の時間を設け他学年の児童と交流しながら身体を動かすことができるのは、とてもよい取組だと思います。 ・暑さの中での外遊びは、難しかったと思います。運動会を見て、他学年との交流が普段からできているのを感じたので、涼しい時間に体育館で行う等の取組を続けて欲しいです。 ・猛暑の中での外遊びは難しいですね。簡単ではないですが、体育館の空調が整備されるとよいのですが。 ・自分も歯磨きが苦手でした。よい取組だと思います。 ・歯磨き表をつくる、グループでの活動にする等、日々の歯磨きが楽しく当たり前にできるよう工夫して欲しいです。 ・歯磨きの時間に高学年が低学年の教室に行き、一緒に歯磨きを行うことで、楽しく歯磨きの習慣が身につくのではないかと思います。	毎週水曜日の屋休憩を「ロング屋休憩」とする。10月以降「ロング屋休憩」は外遊びの時間と定め、全校で外に出て遊ぶ機会を設ける。引き続き、児童会や委員会が中心となった全校外遊びも行う。また、学校内に体力アップコーナーを設置し、体を動かすことの楽しさに気付くようにする。さらに、「運動・ストレッチチャレンジカード」を取り入れ、継続して運動を行い体力向上を図る。											
					・給食後に歯磨きをする児童の割合	85%	59%		69	C	給食後に歯磨きをする児童の割合は59%であり、目標に達していなかった。保健チェック週間に歯磨きを行っている児童は83%であったため、意識づけが必要であると考え。また、給食時間内に給食を食べ終わることができなかった児童が、そのまま遊びに行っている様子が見られた。学級で歯磨きができていない児童への肯定的な声掛けや取組を可視化する中で習慣化させたい。						引き続き、保健チェック週間を行うとともに、全校で同じ時間に歯磨きを行う「歯磨きタイム」を設定することを検討している。また、歯磨きをどのくらい行っているかの割合を学級ごとに掲示し、歯磨きに対する意識を高められるようにする。学級では、磨き終わった児童は名札を移動させるなど可視化することで、歯磨きができていることを児童自身で意識できるようにする。										

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。